



THE MINKYOKYO

REPORT 2025



民間放送教育協会レポート 2025

ごあいさつ



公益財団法人 民間放送教育協会
会長 吉永 みち子

昭和 42 年に、放送を通じて教育の振興と機会均等に寄与するという志のもと、民間放送教育協会は産声を上げました。当時 23%ほどだった大学進学率は、50 年後には 50%を超えました。その過程で、激しい受験競争は低年齢化し、教育はお金がかかるものになり、その結果、教育格差は広がり昨今は格差の固定化が心配され、ついに子どもの側から「親ガチャ」なる深い諦めの言葉が生まれ、少子化の流れは止まらないというのが民教協誕生 58 年後の現状です。

教育機会がすべての子どもに平等に与えられる社会は遠く、不登校の子どもは増加を辿り、半世紀前に目指した教育環境は達成されないばかりか、複雑に屈折しながらむしろ遠のいているような印象さえ受けます。さらにコロナ禍で社会構造の変化が急速に進み、AI の教育現場への導入が、今後どんな影響を及ぼしていくのかもわかりません。

一方、放送と通信の融合により放送界も大きな変化に見舞われています。そんな混沌の中だからこそ、私たちは掲げた理念の原点に立ち返り、これまでの延長戦上の発展ではなく、教育とは何なのか、放送を通じて何ができるのかをもう一度真剣に考えなければならないのだと思います。

14 年前の東日本大震災の折、釜石小学校の校歌が話題になりました。ひとりひとりが自分の足で立ち、自分の頭で考え、考えたらしっかり話し、お互いの違いを尊重しながら共に生きるという井上ひさしさんの手になる歌詞は、教育とは何なのかという問いに、かなり明確な示唆を与えてくれているように感じました。

「どうするか」を考えない人に、「どうなるか」は見えないというのは野村克也さんの言葉でした。この厳しい状況に、私たちはどう向き合っていくのかと様々な機会を通じて考えていかなければならない。その中にこそ、私たちは何をなすべきかというこれからの民教協の目指すべき道があるのだと思っています。

CONTENTS

2025 No.62

ごあいさつ

民教協番組紹介

日本のチカラ	2
民教協スペシャル	5

番組選奨



「日本のチカラ」各賞受賞報告	8
文部科学大臣賞	
「木を編む ～島根発！若き組子職人たち～」日本海テレビ	10
総務大臣賞	
「暮らしを看る ～まちを元気に！コミュニティナース～」福井放送	11
民教協会長賞	
「マダムナンシー ～鄭 徳財 ^{てい とくざい} の人生～」長崎放送	12
中小機構理事長賞	
「壊れたら、直せる。～輪島塗再起への道～」北陸放送	13
JA グループ賞	
「おらほの田んぼは二刀流 ～宮城発！コメ兄弟のご飯とパン～」東北放送	14
第一交通産業賞	
「かさいのかっちゃん ～青森発！小さな町のなんでも屋～」青森放送	15
奨励賞＜4作品＞	
「ぶちかませ！小町 ～女子相撲のココロ 9年の軌跡～」山形放送	16
「くうちゃんとしげしさん ～ふたりだけの桃源郷～」南海放送	16
「きょうだい ～障がい者の兄弟姉妹として～」RKB 毎日放送	17
「ポジティブ ～18歳、2つの夢を追いかける～」山口放送	17
プロデューサー特別賞	
「光と影 ～障がいと生きる 切り絵と暮らし～」大分放送	18
番組トピックス	18
「日本のチカラ」年間放送リスト（2024年度）	19

「テレビのチカラ」大会報告

全国大会【福島】	20
北海道・東北・関東・甲信越地区大会【新潟】	21
中部・北陸・関西・中国地区大会【静岡】	22
四国・九州・沖縄地区大会【沖縄】	23

民教協の事業

小学校授業支援事業	24
読み聞かせ事業	25

民教協からのお知らせ	26
理事・監事・評議員名簿	27
2024年度の主な活動	28

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

ささやかな幸せ、あふれる笑顔、紡がれる希望…

「日本のチカラ」は心温まる物語を描く、教育ドキュメンタリー番組です。

◆放浪癖が沸点に達した2024年、吸い込まれるように亜細亜へ向かった。
まずは中朝国境の町「丹東」。中国のなかでもかなり特異なエリアだ。

鴨緑江をはさんで対岸に朝鮮をのぞむホテル…7年ぶりだが、
ここを指定するのはにはワケがある。部屋にある金庫だ。

「チエシクア ウトする場合は、扉を、閉じないで下さい!!!」

誤植マニアの私にとって、この最高傑作を超えるものはない。

「シ」と「ッ」・「る」と「ぬ」・「さ」と「き」のダブルスタンダード。

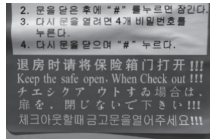
このまま永遠に修正しないで下さい!!!



対岸は朝鮮



失笑金庫



閉じないで下さい!!!

◆翌日、丹東の中心部から車で2時間あまり、中朝国境にある「水豊ダム」。
軍管理施設のため緊張感が漂う。日本の統治時代、朝鮮総督府と満州国の
共同事業で作られた巨大ダムは、現在でも中国・朝鮮に電力を供給している。
望遠レンズで対岸を覗くと、のどかな田園風景が広がり、人影もちらほら。
水面には鴨が気持ちよさげに泳いでいる。国家とか戦争とか、考えることすら
拒絶するほどの平和な情景…。この夢幻感はいったい何なのか…。

◆夜の鴨緑江沿いには雑多な夜店が立ち並び、広場では様々なグループがダンスを
繰り広げている。群を抜いてスゴかったのが、伸縮自在のヒモでつながれた
ゴムボールを両手で地面に叩きつけ、大音量のディスコ音楽とともに踊る高齢者軍団。
四方八方ボールが飛び交うのだが、決して他人にぶつからない絶妙なコントロール。
しかも全員仏頂面。もはや大衆世界遺産だ。

◆早朝の市場では、とんでもない場面に遭遇。「一気に若返る魔法の白粉、塗り放題!」
なる怪しげな粉に群がる女性軍団。額、まぶた、頬、首筋、二の腕まで
綿棒で必死に塗りたくっている。しかも無言で…。あまりにもド直球な人間の
欲望原理は、大好きな中川家のコートを凌駕していた。

愛おしき日常と狂気

◆初秋、訪ねたのはホーチミンとプノンペン。ある写真と土地が目的だった。
静まり返った「戦争証跡博物館」。ベトナム戦争で撒かれた枯葉剤の後遺症で歪んだ、
人間とは思えない肢体…顔半分が溶解し口と鼻が同化…胸から奇妙に生えた脚…
あまりにも非現実的で、涙すら出ない。翌日越境し、ボルボトによる大量虐殺の
爪痕を残す処刑場跡のキリングフィールドへ。赤ん坊を打ち付けて殺害するための
「キリングツリー」が現存している。なぜそこまで残虐になれるのだろうか…。
なんの答えも見いだせなかった。

◆初冬は、戒厳令で混乱する韓国。軍事境界線、地下トンネル、日帝侵略や強制労働・
慰安婦などの資料館をひたすら訪ね歩く。意外だったのはユン大統領弾劾デモ。
若い女性が多く、まさにアイドルのスーパーLIVE。資料館にしろデモにしろ
表層にしか触れられないいもどかしさが、得体の知れない淀みとなって
積み重なっていく。



慰安所



大統領弾劾デモ



愛しの老夫婦

◆ヘトヘトになって吸い込まれたのは、場末の小さな食堂。
格闘技中継を見ながら料理を作る旦那と、淡々と配膳をするおかあさん。
勤勉さと優しさがにじみでている。3日連続で通ってしまった。
80過ぎの饒舌な老人仲間、独りで焼魚をつつく労働者、障がい者の娘を
甲斐甲斐しくいたわる家族…地元客の喧噪と寡黙な老夫婦…涙が出そうだった。

◆人間の営みには善悪、表裏、美醜…さまざまものがうごめいています。
と同時に、何物にもかえがたい愛おしさも秘めています。
「日本のチカラ」もあつという間に10周年。ささやかながらも心に残る
人間の機微をお届けできるよう、制作者一同 精進してまいります。
応援のほど よろしくお願いたします。

総合プロデューサー 雪竹 弘一

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2025年度 ラインナップ ※5月時点でのラインナップです。変更の可能性がございます。

放送回	東京地区放送日	サブタイトル	制作局
421	4月 19日（土）	マリさんのいぶりがっこ ～大好きな味を いつまでも～	秋田放送
422	4月 26日（土）	しょうゆバカセ物語 ～仲間とつかんだ日本一～	福島テレビ
423	5月 3日（土）	これが私の“チンドン人生”	メ～テレ
424	5月 10日（土）	島が誇るメロディー ～沖縄音楽の母 金井喜久子～	琉球放送
425	5月 17日（土）	ママの夢は金メダル ～音のない世界に生きて～	テレビ朝日
426	5月 24日（土）	忘れても いいんだよ ～妻と歩む おだやかな日々～	山形放送
427	5月 31日（土）	夢を叶える車いす（仮）	テレビ朝日
428	6月 7日（土）	鬼・イズ・マイライフ！（仮）	新潟放送
429	6月 14日（土）	竹取おじさん物語（仮）	信越放送
430	6月 21日（土）	“がんサバイバー”の私だからできること（仮）	山形放送
431	6月 28日（土）	嫁と姑の三ツ星まんじゅう（仮）	大分放送

番組の詳しいラインナップや各局の放送時間は

民教協



#421



マリさんのいぶりがっこ ～大好きな味を いつまでも～

加藤マリさんは、いぶりがっこ作りに宿の経営、子育て、出店にスキーコーチと大忙しです。それでも、いつも笑顔で、大変さを感じさせないバイタリティにあふれていました。

食品衛生法の改正で、おばあちゃんたちの漬物作りが大きな転機を迎えています。食の安全が当然のように求められる中で、長年愛された味が消えてしまう現実。そして、マリさんが、伝統の味を守ろうと、手間暇かけていぶりがっこを作る姿を映し出します。

秋田放送 太田 直樹（報道制作部）

#422



しょうゆバカセ物語 ～仲間とつかんだ日本一～

「しょうゆ日本一といえど？」という問いに対して「福島県」と答える人はほとんどいないのではないだろうか？

福島県醤油醸造協同組合の紅林孝幸工場長（54）は東日本大震災後の深刻な風評被害払しょくのため、本当においしいしょうゆ作りを目指し仲間と勉強会を立ち上げた。そして、しょうゆ作りを極めるため自らも博士号を取得した。

チーム一丸となって臨んだ全国醤油品評会で福島県は2年連続入賞数日本一に輝いた。しょうゆ博士が次に目指すのは…。

福島テレビ 菊地 昭洋（編成局長）

#423



これが私の“チンドン人生”

名古屋に女性だけのチンドン屋さんがあります。その名もべんてんや。リーダーは、スージーこと横江美穂さん。もともと女子大でバンドをやっていた横江さん、卒業して商社に就職するも激務の日々。休日のバンド活動が心の支えでした。

やがて客から「チンドン屋みたい」と言われたことで一念発起、会社を辞めてプロに。メンバーも7人となり今や海外公演をするまでに。今年は富山で開催の全国チンドンコンクールに出場します。人々に笑顔と元気を与える姿に密着！

メ〜テレ 堀 雅司（株式会社ライフワークス）

#424



島が誇るメロディー

～沖縄音楽の母 金井喜久子～

日本人女性として初めて交響曲を作曲した宮古島出身の金井喜久子（1906 - 1986 年）。出身やジェンダーの壁にあらがひ様々な功績を持つ女性ですが、その人生はあまり知られていませんでした。

その生きざまを広めたいと2022年に発足した「金井喜久子プロジェクト」は、企画する朗読舞台や当時の音源などをもとに、その不屈の人生を浮かび上がらせていきます。その音楽は、時代を超えて、今を生きる私たちへエールを送っているようでした。

琉球放送 下地 麗子（報道局報道部）

#425



ママの夢は金メダル

～音のない世界に生きて～

6歳の娘をもつ亀澤理穂さんは、生まれつき耳の聞こえない卓球選手です。聴覚障がいを持つアスリートが参加する国際大会「デフリンピック」。2025年、4年に一度の大舞台が初めて日本で開催されます。

大会に向けて厳しいトレーニングを積みながら、母として子育てに奮闘する毎日。音の無い子育てに、もどかしさや苦勞を抱えながらも常に明るく前を向き、笑顔が絶えない亀澤さん。等身大な姿で娘と共に歩む1人の女性を描きます。

テレビ朝日 板敷 里央（テレビ朝日映像株式会社）

#426



忘れてもいいんだよ

～妻と歩む おだやかな日々～

山形県山形市の土田達夫さん（74）と妻・直子さん（75）。2016年に認知症と診断された直子さんを達夫さんが介護しています。直子さんは服の着替えや食事、入浴するのが難しく達夫さんの支えが必要です。夫婦が大切にしていることは「できること」に目を向けた生活。長年ピアノの先生をしていた直子さんは友人たちの前で演奏ができます。2人で温泉旅行にも出かけます。

高齢者の3人に1人が認知症または予備群と言われる時代。認知症介護のリアルに迫るとともに、前を向いて歩く夫婦の姿を見つめます。

山形放送 菅 伸広（制作部）



最優秀企画賞は

あなたを忘れない ～植民地「朝鮮」からの満州移民～ (仮) に決定

「民教協スペシャル」は、公益財団法人 民間放送教育協会に加盟している全国のテレビ局の制作者が、年に一回、渾身の企画を提出し、厳正な審査を経て最優秀企画賞に選ばれた企画を放送するものです。1986年以來39回の放送を数え、これまで数々の賞を受賞しています。

第40回の企画募集(2026年2月放送予定)では加盟17局から24企画の応募があり、映画監督・作家の森達也さん、ノンフィクション作家の星野博美さん、ドキュメンタリー監督の大島新さん3名の審査委員による厳正な企画審査が行われました。

一次審査を通過したのは以下の6作品です

捕虜と無頼 ～地方紙の1945～ (仮)	新潟放送	吉井 一善
虐殺という熱狂 ～昭和100年 和解の風は吹くか～ (仮)	メ〜テレ	村瀬 史憲
あなたを忘れない ～植民地「朝鮮」からの満州移民～ (仮)	信越放送	手塚 孝典
ワシらと町とYouTube (仮)	中国放送	山本 和宏
障がい者のきょうだい 心の重荷をおろして (仮)	RKB毎日放送	石川 恵子
希望を灯して - 貧困と向き合うゴージャス理枝 -	沖縄テレビ	上原 麗夏

この6作品について、約5分のプレゼンVTRとブラッシュアップされた企画書をもとに、2025年3月12日、二次審査が行われました。森達也さん、星野博美さん、大島新さん3名との真剣な質疑応答の結果、信越放送・手塚孝典さんの、あなたを忘れない ～植民地「朝鮮」からの満州移民～ (仮) が最優秀企画賞に選ばれました。

審査後の講評では、森達也さんから「歴史の盲点かつ、重要なテーマ。重厚な作品になりそうだが、要素が多いので取舍選択の覚悟が必要」、星野博美さんから「3度目の挑戦で、執念を感じた。軸となる朴さんを大切に、複雑な問題を自分なりの切り口で紐解いてほしい」、大島新さんから「朴さんの人生は非常に興味深い。最終形がどういうものになるのか未知数だが、手塚さんのすべてをぶつけてほしい」というコメントをいただきました。

今回の企画では、手塚さんが「戦後80年が経ってもなお記録されず、伝えられてこなかった侵略と占領政策、植民地主義の実態と苦悩、爪痕」を描き出します。





第40回 民教協スペシャル 最優秀企画賞

2026年2月放送予定



あなたを忘れない

～植民地「朝鮮」からの満州移民～

「朝鮮人の満州移民なんて、ほとんどの日本人は知らないし、興味も関心もないよ」という声が、本企画への率直な感想だと思う。日本には、戦後80年の今も、知られていない戦争の事実があることを、それが関心を持たれないという現実を、どう考えればいいのだろうか。なぜ、今まで、目を向けなかったのか、問わなかったのか。反省と戒めをこめて、この自問を胸に刻みたい。

朝鮮半島と中国東北部は古くから人々の移動はあったが、1910年の日韓併合で日本による植民地支配が本格化すると、日本人に土地を追われ、あるいは弾圧や徴兵、強制連行から逃れるために、そして日本の「満蒙開拓」を補完する集団移民として、人々は朝鮮を離れて満州へ入植する。その数は1945年時点で約220万人と推計され、在満日本人を上回っていた。

主人公の朴仁哲さん（52）は、祖父母が朝鮮人満州移民で、いわゆる3世にあたる。中国のハルビン近郊で生まれ育ち、24歳のとき、日本語を学ぶために札幌にきた。その後、研究者として中国の移民1世を訪ね、証言記録に取り組んだ。歴史の片隅で虐げられてきた人々の声を伝えたいという思いだけではない。不都合な史実と向き合うことから、東アジアの対話と交流の道に光を照らしたいと願ってきた。

「自分は何者なのか」「祖国とは何か」、永遠に続く問いと向き合う朴仁哲さんを通して、見過ごされてきた国家間の歴史に目を向けて、新たな未来への手がかりを掴む道筋を見つめたい。

信越放送 手塚 孝典（ディレクター）

時給10円という現実

～ 消えゆく農民～

第39回 民教協スペシャル

2025年2月8日(土)～15日(土) 放送



「10年後 20年後に私たちは何を食べているのだろうか」…。そんな疑問が番組制作中から、そして放送を終えた今も頭から離れません。

「消費者に『農業・農村はこのままでは消えていくけど分かってる？ いいの？』という問いを突きつけてくれた」、「農家で育った私にとって、『国民皆農』という言葉は大変勇気づけられるメッセージでした」、「この現状を日本人は誰もが自分事として考えないといけない」、「最大の懸念・問題は『農に対する無関心』であることがひしひしと伝わってきた」…。番組をご覧いただいた方からありがたいたくさんのご感想、ご意見をいただきました。

番組で伝えたかったのは、「農家って大変」ということではなく、私たちはこれから何を食べていくのか、私たちみんなの問題だということです。番組の主人公・菅野芳秀さんは「農家がいなくなって、食べるものをつくる人がいなくなっても農家は困らない」と話します。菅野さんはコメをつくり、自家野菜をつくり、卵、納豆も自家製。

「何があっても食ってはいける。困るのは消費者、とりわけ都会の人たちだ」と。日本の食料自給率はカロリーベースで38%、先進国では最低水準です。農民がこぼれ落ちるようなものも言わずに消えている現実の中で、一体我々は何を食べようとするのか…。国民的な議論がないまま、結果的に「農なき国」を選び取ってしまうのでしょうか。家族農業、兼業農家も大規模法人も、そしてペランダ農業も、みんなが土と関わり、みんなが命の世界と関わっていく…菅野さんが思い描くそんな未来は来るのでしょうか。

山形放送 三浦 重行 (報道制作局長)



文部科学大臣賞

生涯学習も含め、もっとも価値があると思われる番組

木を編む ～島根発！若き組子職人たち～

制作：日本海テレビジョン放送

選出理由

映像から伝わる作品の美しさが見事。出雲の文化、桃源郷のような山里、全国から若い人を惹きつける組子の魅力などがバランスよく描かれ、将来性を感じさせる。都会からの移住者をはじめ若手中心で頑張っており、地方創生、伝統文化、技能継承、ワークライフバランスなども合わせ、地域中小企業に明るい希望を灯す。登場人物も多様で、地方での生き方がリアルに浮かび上がっていた。



総務大臣賞

地方創生に寄与する番組

暮らしを看る^み ～まちを元気に！コミュニティナース～

制作：福井放送

選出理由

年齢も肩書きも異なる様々な人々と交流しながら地域の暮らしに溶け込み、ガンなどの深刻な問題に対しても明るく取り組む主人公の姿がすばらしい。病気になる前にこそ健康を大切にしてほしいという強い信念から、具体的に行動していく姿に感銘を受ける。老若男女、幅広い方々を対象に活動しており、持続性・世代間交流の観点からも地域創生に寄与している。



中小機構理事長賞

地域中小企業の活力を魅力的に紹介した優秀な番組

壊れたら、直せる。 ～輪島塗再起への道～

制作：北陸放送

選出理由

1月の地震に続き9月にも水害があり、度重なる自然災害に見舞われ困難な状況にあって、計り知れない苦労の連続のなか、明るく振舞いながら「壊れたら、直せばいい」の精神で、一歩ずつできるところから前向きに進んでいく姿勢に感銘を受けた。解体前の工房から奇跡的に発見された輪島塗の弦楽器で、復興を願い演奏されたシーンには心を打たれた。

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2024年度 番組選奨

2025年3月5日、2024年度「日本のチカラ」番組推奨の選考会議が行われ、11作品が選出されました。

「総務大臣賞」では、総務省大臣官房広報室長・村上仰志さん、「中小機構理事長賞」では、中小機構理事長・宮川正さん、「JAグループ賞」では、JA全中・広報部 長谷川健一さん、「第一交通産業賞」では、第一交通産業・広報チームも事前選考に加わりました。

評価委員

奥山 睦（静岡大学大学院客員教授）

鈴木 美伸（上智大学非常勤講師）

星野 博美（ノンフィクション作家）

選考にあたっては「多くの人に見てもらえる生涯学習番組」の目標に沿って「日々の生き方、地域ならではのリアル」がどれだけ丹念に描かれていたか、未来への可能性を感じ取れたか、番組として純粋に楽しめたか、といった点も参考とされました。



民教協会長賞

テレビ番組としての評価の高い番組

マダムナンシー^{てい とくざい} ～鄭 徳財の人生～

制作：長崎放送

選出理由

華僑、被爆者、トランスジェンダーというマイノリティーなナンシーの生きざまを追い、時代に翻弄されながらも逞しく生きてきた姿に胸を打たれる。長崎、横浜という港町独自の地域性もうまく表現されていた。映画の題材になりそうな物語性がある秀逸な素材の数々が各所に散りばめられており、歴史的な資料も貴重。学ぶべきことが多く、今こそ学校教育の現場で光る番組といえる。



奨励賞（4作品）

価値のある番組、また今後に期待したい番組

ぶちかませ！小町 ～女子相撲のココロ 9年の軌跡～

制作：山形放送

選出理由 女子相撲に打ち込んできた少女を、9年の長きにわたって追い続けてきた番組制作の姿勢は評価に値する。次第に自分の殻を破って輪を広げていく成長物語がすがすがしい。人間の成長は、多くの人との関わりから進んでいく…そう改めて気付かされる教育効果が高い。

くうちゃんとしげしさん ～ふたりだけの桃源郷～

制作：南海放送

選出理由 自然の美に圧倒される。桃源郷というものがあるのだと教えてくれた。しげしさんがヤマガラと遊ぶところ、きのこをとる、こんにゃくを作る、本気でしんどい雑草刈りなど、山里で暮らす素朴さの裏にある大変さを丁寧に描いていた。超高齢化時代、夫婦生活のあり方も考えさせられた。

きょうだい ～障がい者の兄弟姉妹として～

制作：RKB 毎日放送

選出理由 障がい者のきょうだいの存在は、ほとんど語られず、親から受ける期待と愛情の欠落のようなものは目から鱗だった。なかなか他人に言えない生きづらさのなか、自分軸をしっかり持って生きていかなければならないという問題提起と課題解決を提示した意義のある番組だった。

ポジティブ ～18歳、2つの夢を追いかける～

制作：山口放送

選出理由 ユウタさんは言語化するのが上手で、かみ砕いて伝える、ヒントがあれば気づいてくれることなど、障がいのある人となない人の間で橋渡しができる人だと感じた。自分より障がいが重い年下の子を本当に自然によく見ている。けれど押し付けがましくない。今後も見続けたいと思わせる番組だった。



J Aグループ賞

持続可能な食と地域作りに寄与する番組

おらほの田んぼは二刀流 ～宮城発！コメ兄弟のご飯とパン～

制作：東北放送

選出理由 高齢化による人手不足が深刻な宮城県栗原市で米作りに奮闘する二人の兄弟。同世代の友人が次々と地元を離れるなか「故郷が寂れていくのはつらい」と、伝統芸能の継承やYouTubeなどで栗原市の魅力を数多く発信している。それぞれの得意分野でお互いの強いところを高めあい補う、そんな兄弟の人間味あふれる姿や強い絆、郷土への熱い思いが伝わる作品であった。



第一交通産業賞

人の未来を見据え、地域発展に寄与する優秀な番組

かさいのかっちゃん ～青森発！小さな町のなんでも屋～

制作：青森放送

選出理由 今後全国で起こる「過疎化」「高齢化」「後継者不足」「自給自足」といった地域課題を提起する優秀な番組。家族を越えた老々介護がどんどん増えていくなか、同様な状況にある方々の心の支えになる。姫子さんの地域を守るという意志の強さ、濃密な人間関係だからこそ日々の幸せがじわじわと感じ取れた。姫子さん手作りのチラシを大切にしているシーンがとても印象的だった。



プロデューサー特別賞

人の営みの機微を捉えた、心に残る優れた番組

光と影 ～障がいと生きる 切り絵と暮らし～

制作：大分放送

選出理由 切り絵自体のすばらしさはもちろん、中島さんの生き方に感銘を受けた。食事・洗濯・トイレまで何気ない日常を丹念に描いており、前向きで明るく家族を大切にする中島さんの姿にとてつもない尊さを感じた。多くの若者にみてもらいたい秀作。



文部科学大臣賞



制作

日本海テレビ

報道制作部

小田原 安理

木を編む

～島根発！若き組子職人たち～

木を削り、組み合わせることで様々な模様をつくり出す組子細工で注目を集めている吉原木工所。島根県浜田市の間。日本の棚田百選に認定された「室谷の棚田」に囲まれた自然豊かな場所に会社があります。一方で、交通の便が悪く周辺にはお店一つありません。とても便利な立地とは言えませんが、吉原敬司社長（47）は「頑張らないとたどり着かない場所だからこそ本気の人が集まる」と話します。

組子職人を目指し吉原木工所の門をたたいたのは上野藍さん（26）。東京出身の元OLです。指導にあたるのは同じ年の清水智加さん職人歴は6年目。さらに、制作主任の中原空芽さん（24）。要領がよく、先輩職人たちから一目置かれる存在です。職人のほとんどが20代です。

彼らのプライベートに密着すると見えてきたのは、子育てに奮闘していたり、趣味のギターをかき鳴らしたり、どこにでもいる、普通の若者だ、ということ。さらに、会社はB B Qをしたりバレーボールをして遊んだり、寡黙で厳格という職人のイメージとは真逆の、アットホームな雰囲気を感じさせます。これらは積極的に社内でのコミュニケーションを図るため社長の発案から始まったそうです。しかし、ひとたび仕事となると職人の顔つきに。本気でモノづくりの勤しみ、人にも自分にも厳しく妥協を許しません。

取材に向かう度に私自身が感じていた、若者たちに選ばれる会社の魅力。彼らを惹きつけてやまない美しい組子細工。手探りではありましたが、番組を通して少しでも「吉原木工所の今後を応援したい」そんなふうにいるてもらえればうれしいなという思いで制作しました。



総務大臣賞

制作

福井放送

制作部

城下 拓也



暮らしを^み看る

～まちを元気に！コミュニティナース～

「代表取締役／看護師／保健師／コミュニティナース」。
今回の主人公、加藤瑞穂さんの名刺に書かれている肩書きです。病院勤めをしているわけではなく、去年2月に自分の会社を立ち上げた社長。ですが、れっきとした現役看護師で、暮らしの中で人を看^みています。医療行為を行う代わりに、地域で人と人をつなぎ、まちを元気にして「コミュニティナース」と呼ばれています。

私が初めて会った2年前、彼女はカフェの店員でした。「コミュニティナース」としてカフェにたたずみ、お客さんの健康相談にのったり、カフェでがんサロンを開いたり。驚いたのがとんでもなく「聞き上手」なところ！加藤さんの話を聞きに行っただけなのに、気づいたら私のほうが生い立ちや仕事内容などを話していました。

その後、カフェを辞めて独立するのですが、ひと悶着あり、それまで撮りためた素材がほぼ使えない状態に……。実は放送を1年延期させてもらいました。そこからよりパワフルに活動を始めた加藤さん。たくさんの方が出会う場をつくり、出会った人たちとたくさんおしゃべりをして、心身に不調があれば、医療に繋いでいきます。

加藤さんの活動を通して、これから超高齢化・多死社会を迎える地方の中で、理想的な地域のあり方を提起したいと考え、1年越しで放送にたどり着いた本番組が「地方創生に寄与する」と評価いただき、喜びもひとしおです。放送後、加藤さんの中には、病院から暮らしに飛び出したい！と考える全国の看護師から問い合わせがあったそう。日本中に加藤さんのような看護師が増えるとうれしいです。



民教協会会長賞



制作

長崎放送

NBCソシア
テレビ部長

宮路りか

マダムナンシー

〜鄭徳財の人生〜

「この名刺、財布に入れときなさいよ！絶対金持ちになるけんさ！」四半世紀も前に渡された名刺。以来、私の大切なお守りです。

ナンシーはそう信じさせる、不思議な力と魅力のある人。本名は鄭徳財。一生お金に困らぬようにと父がつけた名前です。福建省出身の父と、幼い頃女中として上海に売られた母。貧しい暮らしから逃れるため海を越えた両親の壮絶な人生は、ナンシーの生き方に大きな影響を与えました。ナンシーは1945年生まれ、まさに戦後日本と同級生です。

華僑2世、被爆者、トランスジェンダー、3つのマイノリティで生き抜いてきた激動の時代。

高笑いをしていたかと思つた次の瞬間に見せる鋭いまなざし。何度もその目に射抜かれながら取材を続けました。夜の世界で生きてきたナンシーですから、愛想よく雰囲気作りも上手。けれど、すべてを見透かされている…その思いは取材中いつもありました。

「川の向こうに塩と砂糖と置いてある。見ただけじゃわからんやろ？なめてみらんばわからんやろ？」ナンシーから教えてもらった言葉です。人生とは何度も橋を渡り、甘いと感じるのかしょっぱいと感じるのか…その繰り返し。ナンシーは「苦かったかもね…」とつぶやきました。

2025年3月18日はナンシー傘寿の誕生日。誕生日パーティの席で受賞を知らせると、自分で着付けた和装姿でとても喜んでくれました。金持ちになる！その予言はまったく当たっていませんが、お守りの名刺は受賞という大きなご利益を私にくれました。



中小機構理事長賞

制作

北陸放送

営業開発局
開発事業部長

坂爪 陽介



壊れたら、直せる。 ～輪島塗再起への道～

2024年度の「中小機構理事長賞」を頂き、本当にうれしく思います。2024年の元日、能登半島地震が発生し、伝統工芸の輪島塗の職人さんたちが大勢住んでいる朝市通りの周辺で火災が発生しました。「職人さんたちは無事なのか?」「これから輪島塗はどうなるのだろうか?」。余震が続く、水も電気も届かず、誰もが不安に押しつぶされそうなお中、MROの報道記者が出会ったのが八井さんです。壊れた工房を前に悔しさや悲しさを素直に語ってくれた八井さんの様子がとても印象的で、引き続き取材をお願いすることになりました。

様々な支援が全国から届く中、中小機構から送られた仮設工房に、なんと八井さんの会社が入って輪島塗を再び作れるように。しかし9月に豪雨が発生し、さらに復興が遠のいてしまっています。それでも八井さんは伝統の輪島塗を絶やしたくない一心で、持ち前の明るさ、一生懸命さで周りの人たちの心を前向きに変えていきました。仮設住宅で暮らす両親への思い、職人たちの絆など、取材する我々が逆に八井さんからパワーをもらうことも。放送後に視聴者から「結婚していないなら、うちの娘をもらってくれ」と八井さんに電話がありビックリしたそうです。ちなみに八井さんは既婚者です（笑）。

能登半島地震から1年余り。まだまだ復興は道半ばです。地震を風化させず未来につなげたいとあきらめずに頑張る被災者のみなさんに地元の放送局としてこれからもしっかりと寄り添って参ります。



J A グループ賞

制作

東北放送

テレビ制作部

谷内 里咲



おらほの田んぼは二刀流 ～宮城発！コメ兄弟のご飯とパン～

今回の日本のチカラ「おらほの田んぼは二刀流」宮城発！コメ兄弟のご飯とパン」の見どころは、なんととっても白鳥さん兄弟の地元に対する熱い想いです。舞台となる栗原市一迫では高齢化が進み、農業の後継者不足に悩んでいる方が多くいます。

そのような中で、主人公の一人、兄の太朗さんは仕事では稲作を担当し、また、若い人の雇用を増やそうとしています。そしてもう一人の主人公、弟の大二朗さん。大二朗さんは兄たちが育てた米から米粉をつくり、そこからパンを焼いています。プライベートではYouTubeチャンネルに地元栗原の魅力を伝える動画をいまままで100本ほど投稿。彼らをそこまで突き動かすものは、ストレッチな地元愛でした。市外に出ていく若い人も多い中で、「せっかく地元に残っているんだから」という想いで、地元の魅力を発信し、若者の雇用の機会をつくっています。白鳥さん兄弟はそれぞれの得意な分野でお互いの強いところを高めあい、また、弱いところを補い合う。春先から取材を始めましたが、さまざまな場面でお互いを大切に思っているということが伝わってきた半年でした。

放送後は「根本的な地域づくりについて考えさせられる内容だった」という声や、白鳥さん一家から「家族としても素敵なプレゼントをいただいた」という感想をいただきました。この番組をみた方が、農業の今後について考えたり、家族や地元に関心を馳せるきっかけになったのなら幸いです。



第一交通産業賞

制作

青森放送

制作局
テレビ制作部

桑原 萌



かさいのかっちゃん ～青森発！小さな町のなんでも屋～

おばあちゃんの家のように温かく居心地のいいスーパーマーケット。初めて「スーパーかさい」に行ったとき、私が抱いた印象です。「お母さん」と呼ばれる店主の葛西さんは、電話が来ればすぐ配達へと向かい、歩いて店に来たお客さんがいれば送迎もします。ときには相談にのり、配達に行くお客さんから連絡がないとお家を訪ねに行くほど。少しおせっかいなお母さんが営むなんでも屋さん「スーパーかさい」です。

取材を進めていくと、そんなお母さんの温かな「おせっかい」が地域を支え、ここで暮らす人たちを元気づけていることに気づきました。地区の半分以上は高齢者。一人で暮らす方も多く、「寂しい」「家族に迷惑をかけないで死にたい」。そんな言葉を時に口にしながらも、生活の中のささやかな楽しみを大切にしながら日々を暮らしています。みなさんにとって「スーパーかさい」は、いつでも元気をもらえる存在として愛されているのです。

「忙しい、忙しい」と言いながらも、みなさんから頼られ、笑顔が見られることがうれしいお母さん。季節を感じてもらえるように節分などイベントにちなんだお総菜は欠かさず、気分が明るくなるような飾りも必ず添えます。地域で暮らすみなさんを大切に思うからこそその小さな心づかいの積み重ねが、お母さんとみなさんのつながりを強めてきたのだと思います。山と海に囲まれた自然豊かな小さな町に流れる、温かな時間を感じていただけたらうれしいです。



奨励賞

株式会社プライド・トゥ

制作部

佐藤 愛未

山形放送

制作

南海放送

愛媛アライアンス戦略局
愛媛アライアンス戦略室

長野 大介



ぶちかませ！小町 ～女子相撲のココロ 9年の軌跡～

「ぶちかませ！小町」は、私が入社1年目に初めて取材した番組です。過去山形県内で10回放送し、取材は9年にも及びました。年数が経つにつれ、小町ちゃんへの思い入れも強くなり、いつも番組尺との戦い。映像と格闘するあまり、小町ちゃんに土俵で寄り切られる夢を見るほど、心に残る場面がたくさんありました。

小町ちゃんは全国の強豪選手に比べると、相撲が強いかもしれませんが。

「もう相撲やだ」大会前は弱音しか吐かず、取材中はいつも心配ばかり。それでも相撲をやめませんでした。コロナ禍で相撲が取れなくても、小学校の卒業式があった日でさえも、小町ちゃんはたった一人で相撲に打ち込んでいました。

この春から高校2年生となり、あどけなかった女の子がもう立派な女性に成長しています。私にとって小町ちゃんは取材相手ではなく、家族のような存在です。これからも、いちは応援団としてそっとそばで見守り続けたいと思います。



くうちゃんとしげしさん ～ふたりだけの桃源郷～

取材を始めた2020年から毎年、ニュースや地元の情報番組などで取り上げ続けた結果、ついに全国各地で放送されることになりました。年々来客者が増え続け、すっかり地域のシンボルになった「花桃の里」に、番組を見た方から手紙が届きました。数十年前、夫婦が北海道を旅行で訪れた際、運転手として案内した方からでした。人柄の良さから大変仲良くなったそうですが、しばらく連絡は取れておらず…。たまたまテレビで知った顔を見て驚き、手紙を書いたそうです。その当時、花桃畑は完成しておらず、また会いに行く楽しみができました。と…。他にも同じように花畑で地域を盛り上げようとする団体が、福井県から視察に来ています。番組をきっかけとした多くのつながりに、地域で頑張る人たちを後押しできるテレビのチカラを感じました。

2024年の冬、くうちゃんとしげしさんは約20本の花桃を移植。数年すれば立派な花をつけてくれると、にこやかに話すお二人。まだまだ元気に花見客を出迎えます。



奨励賞

制作

RKB毎日放送

テレビ制作部長

石川 恵子



きょうだい

～障がい者の兄弟姉妹として～

自閉の画家・太田宏介さん（43）と起業した兄・信介さん（50）。大胆な構図と独特の色合いで人気を博し展示会の依頼が殺到公私ともにバディーである兄弟ですが、兄は弟の障がいを恥じていました。そんな若いころの自分の経験が役に立てば…と「福岡きょうだい会」を立ち上げます。そこで障がい者の兄弟姉妹に悩まされる人々から衝撃的な本音を伺うと…というのが本作のあらすじです。

「弟をかわいいと思ったことはない」「母は、健常者の私を優秀に育てることで、障がい者を産んだ、負けを取り返そうとしている」など衝撃的な声に絶句する一方、重度の自閉症であるはずの宏介さんの私たちへの親しみやすい振る舞いに触れ改めて「障がい者の兄弟姉妹は優しい（はず）」「自閉症はコミュニケーションをとりづらい」という思い込みを履す事実を目の当たりにした取材でした。きょうだいたちが「親亡き後」「結婚」など未来に向かってどのような舵を切るのか。しっかりと見届けていきます。



奨励賞

制作

山口放送

報道部

木下 和哉



ポジティブ

～18歳、2つの夢を追いかける～

先天性の遺伝性疾患アルビノの患者は生まれつき肌や髪の色素が薄く、視覚障がいを伴うことが多いそうです。祐汰さんも生まれつき弱視で、周りの友達と同じことをさせてもらえないことに反抗し、よく母・幸子さんを困らせていたといいます。祐汰さんが「できることはなんでも自分でやりたい」と話すのは、そういった過去の経験があるからです。全てに手を差し伸べるのではなく、できることはやらせてあげることも障がいがある人への理解の一つだと祐汰さんが教えてくれました。障がいと向き合いながら勉強やブラインドサッカーに前向きに取り組む彼の姿はまさに「ポジティブ」で、そのありのままの姿を伝えようと番組制作しました。

大学では視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱と、特別支援教育の5つの領域について広く、深く学んでいるそうです。「知らないことばかりで大変だけど、新しい知識を身につけられるのは楽しい」と話しています。ポジティブな彼の姿を今後も追いかけていきたいと思います。



プロデューサー 特別賞

報道制作局
コンテンツ部

藤澤 真由美

制作

大分放送



光と影

～障がいと生きる 切り絵と暮らし～

繊細な陰影とやわらかな色彩で表現される人物や風景、動物…。切り絵の作者は大分県日出町在住の会社員・中島真一さん（54）。先天性多発性関節拘縮症で手足が不自由なため、ふだんは車いすで生活しています。

写真から下絵を描き、口にくわえたデザインナイフを操りながら、細かな線をカットしていきます。「黒と白と光と影で人物や風景を表現するところが切り絵の魅力」と中島さんは話します。間取り2Kのアパートでひとり暮らしをする中島さんの日常には、さまざまな工夫が…。たいていの困りごとはDIYで解決します。切り絵と暮らし、そしてなにより、いつもニコニコ笑顔で謙虚な人柄が中島さんの最大の魅力です。

中島さん自身は「切り絵は自分が好きでやっているだけで社会貢献の意識などはあまりない」と言っていますが、中島さんの生き方そのものが、私たちに勇気を与えてくれます。次はどんな作品が誕生するのか、楽しみでなりません。

番組トピックス

「日本のチカラ」、「民教協スペシャル」といった民教協の番組をベースにした各局のドキュメントが、本年度も数々の賞を受賞しました。

「ハマのドン “最後の闘い” 一博打は許さない」

制作：テレビ朝日

・第41回 日本復興賞 日本映画復興奨励賞



「それでも歩き続ける ～右手と両脚を失ったあの日～」

制作：テレビ朝日

・令和6年度 ヤング映像クリエイターを励ます賞 経済産業大臣賞

「わ紙とわたし ～和紙がつないだ生きる場所～」

制作：高知放送

・令和6年度 ヤング映像クリエイターを励ます賞 地方局賞 優秀賞



「時給10円という現実 ～消えゆく農民～」

制作：山形放送

・2025年2月度 ギャラクシー賞 月間賞

日本のチカラ 2024年度放送リスト

NIPPON NO CHIKARA

#	東京地区放送日	タイトル	制作局
379	4月20日(土)	藤前干潟のガタレンジャー ～自然の魅力、伝えます～	メ～テレ
380	4月27日(土)	それでも歩き続ける ～右手と両脚を失ったあの日～	テレビ朝日
381	5月4日(土)	二人の力をあわせて ～夢は消防士～	静岡放送
382	5月11日(土)	伝えたい！ながのばあちゃん93歳	RKB毎日放送
383	5月18日(土)	ぶちかませ！小町～女子相撲のココロ 9年の軌跡～	山形放送
384	5月25日(土)	沖縄発！カラフル石嶺～彼女たちの前向きな生き方～	琉球放送
385	6月1日(土)	ニセコ発！“五感”の逸品～ユニーク家族の塩トマト～	北海道放送
386	6月8日(土)	もりおか朝市物語	IBC岩手放送
387	6月15日(土)	かさいのかっちゃん～青森発！小さな町のなんでも屋～	青森放送
388	6月22日(土)	くっちゃんとしげしさん～ふたりだけの桃源郷～	南海放送
389	6月29日(土)	こころの居場所～みんなのいえ カラフル～	大分放送
390	7月6日(土)	樹を、成す	高知放送
391	7月13日(土)	きょうだい～障がい者の兄弟姉妹として～	RKB毎日放送
392	7月20日(土)	やる気だけが月謝～子どもの未来をひらく無料塾～	テレビ朝日
393	7月27日(土)	走る！ボランティア先生～被災者を応援し続けた29年～	メ～テレ
394	8月3日(土)	生まれ育ったこの国で～在留資格と18歳の夢～	信越放送
395	8月10日(土)	ポジティブ～18歳、2つの夢を追いかける～	山口放送
396	8月17日(土)	日本舞踊とメーブルシロップ～国際結婚で私を知った～	北海道放送
397	8月24日(土)	私の光～全盲のシングルマザー～	メ～テレ
398	8月31日(土)	人生謳歌！奏でる発明家～病が生んだ楽器 ポケたん～	北日本放送
399	9月7日(土)	光と影～障がいと生きる 切り絵と暮らし～	大分放送
400	9月14日(土)	ひげじいのハンドル～77歳、動けるかぎり送り続けます～	山梨放送
401	9月21日(土)	かめたろう！～ウミガメの町のアイドル～	四国放送
402	9月28日(土)	母を失ったクマ クラウド	中国放送
403	10月5日(土)	私の名前は レディーヘベ	宮崎放送
404	10月12日(土)	人生全開！シングルマザー～農家をつなぐ信頼と笑顔～	北陸放送
405	10月19日(土)	晴れのち晴れ～岡山発！人と農がつながる場～	西日本放送
406	10月26日(土)	ぼくら令和のたけのこ族	新潟放送
407	11月2日(土)	お菓子なチャレンジ本舗～141年目の第一歩～	南海放送
408	11月9日(土)	でこぼこジャグリング	沖縄テレビ
409	11月16日(土)	暮らしを看る～まちを元気に！コミュニティナース～	福井放送
410	11月23日(土)	木を編む～島根発！若き組子職人たち～	日本海テレビ
411	11月30日(土)	そば畑へ人事異動～サラリーマン農業のパパ～	信越放送
412	12月7日(土)	おらほの田んぼは 二刀流～宮城発！コメ兄弟のご飯とパン～	東北放送
413	12月14日(土)	【アンコール放送】新しい漁師のリーダーズ	山陰放送
414	12月21日(土)	壊れたら、直せる。～輪島塗再起への道～	北陸放送
415	1月4日(土)	マダムナンシー～鄭徳財の人生～	長崎放送
416	1月11日(土)	サンマの海にほえろ！～83歳、怪獣船頭～	東北放送
417	1月18日(土)	100年先に残す絵本を作ろう～阪神淡路大震災から30年～	ABCテレビ
418	1月25日(土)	本気で学び 本気で遊ぶ！しまんちゅ高校	南日本放送
419	2月1日(土)	清く・楽しく・美しく～私たちスミレジェンヌ！～	熊本放送
420	2月8日(土)	南極に行った“殿様”～あこがれの大地へ～	北海道放送

「日本のチカラ」は以下の地上波、BSの各放送局でもご覧いただけます。

- BS 朝日 毎週金曜日 5:25～
- 群馬テレビ 毎週土曜日13:30～(日曜日再放送)
- TOKYO MX 毎週土曜日 27:30～ ※番組編成は変更する場合がございますのでご了承願います。

第60回 テレビのチカラ全国大会 2024福島

2024年11月23日（土） 郡山市立中央公民館

主管局：福島テレビ



全国大会

大会テーマ



つなごう。
ふるさとの希望。



「つなごう。ふるさとの希望。」と題し、震災からの復興という重めのテーマの全国大会でしたが、終始、会場は笑顔であふれ、笑い声が聞こえる和やかな雰囲気につつまれていたことをうれしく感じています。

その空気をつくってくれたのは、トークセッションとパネルディスカッションに参加いただいたカニング竹山さんの存在が大きく、重いテーマのハードルをぐっと下げてくれたと思っています。竹山さんは震災後に福島を訪れたことをきっかけに、足しげく福島に通ってもらっています。「ただ福島で遊んでいるだけ」と本人は話していますが、そのスタンスが福島県民の懐に入り込み、竹山流の発信力につながっています。福島テレビ制作の「カニング竹山の福島のことなんか、誰もしらねえじゃねえかよ！」は、竹山さんの気取らないスタンスが、時には原発や被災地が話題になっても、ニュースとは違った視点で、情報を知ることができる番組になっています。

今回、竹山さん以外のパネリストの3人も、福島での活動はバイタリティにあふれています。郷土玩具の新たな取り組み、避難区域での工場建設、福島の食と農業を考える事業と、それぞれの立場で福島の復興を後押し、魅力を発信しています。

東日本大震災から13年以上の時間が過ぎた今でも、福島の復興は道半ばです。28年ぶりとなった福島での大会は、テレビが気軽に安心して見てもらえるメディアであり続ける意味と、震災を風化させず、復興していく姿を伝え続ける役割を、再認識する貴重な機会になりました。

報道制作局 報道部長 須田 浩元



プログラム

▶司会進行

浜中 順子（福島テレビアナウンサー）
大久保 薫子（福島テレビアナウンサー）

●オープニングアクト

「ポリネシアショー」
スバリゾートハワイアンズ ダンシングチーム

第1部 トークセッション

「ピンチをチャンスに」被災地から考える真の復興とは何か
カニング竹山（お笑いタレント）

●アトラクション

「言葉にできない」「花は咲く」の合唱
郡山高等学校合唱団

第2部 パネルディスカッション

「つなごう。ふるさとの希望。」

▶パネリスト

カニング竹山
渡邊 高章（白河だるま総本舗 14 代目）
浅野 雅己（浅野燃糸株式会社 代表取締役社長）
佐藤 宏美（一社 GDM ふくしま 代表理事）

2024年10月5日（土）新潟市民プラザ

主管局：新潟放送



地区大会
新潟大会

大会テーマ



ど・ローカルからのグローバル



「ど・ローカルからのグローバル」をテーマに、新潟市で開催された本大会は、人口減少が進む地方における地域活性化のヒントを探る熱気に満ち溢れていました。

基調講演では、スノーピークの山井太氏が、アウトドアを通じて地域創生やグローバル展開を実現してきた経験を共有。人生のあらゆる側面にアウトドアの価値観を取り入れ、地域の魅力を発掘し、世界に発信する取り組みが紹介されました。

続くパネルディスカッションでは、山井氏に加え、大地の芸術祭の原蜜氏、食と酒のイベントプロデューサーのデュケット智美氏が登壇。それぞれの活動を通じて、地域固有の魅力を発信することの重要性を強調しました。特に、原氏は「土地の力を丁寧に示せば、必ず人が集まる」と述べ、地域の魅力を最大限に引き出すことの大切さを訴えました。デュケット氏は、異文化理解の重要性を指摘し、地域の魅力を世界に伝えるためには、自らの言葉で発信することが不可欠であると強調しました。

今回の大会では、地域の魅力を発掘し、それを世界に発信することの重要性が改めて浮き彫りになりました。地域が抱える課題を克服し、持続可能な地域社会を築くためには、地域住民一人ひとりが主体的に行動し、地域の魅力を再発見し、それを世界に発信していくことが求められているのではないのでしょうか。

執行役員編成局長 島田 譲



プログラム

▶司会

行貝 寧々（新潟放送アナウンサー）

●オープニングアクト

柏崎常盤高校なぎなた部のパフォーマンス

第1部 基調講演

「ど・ローカルに誕生したキャンプの聖地」

山井 太（株式会社スノーピーク 代表取締役社長執行役員）

第2部 パネルディスカッション

「今こそ！ど・ローカルからのグローバル」

▶パネリスト

山井 太（株式会社スノーピーク 代表取締役社長執行役員）

原 蜜（NPO 法人越後妻有里山協働機構 事務局長）

デュケット 智美（Niigata SAKE Lovers 代表）

▶コーディネーター

伊勢 みずほ（フリーアナウンサー）

テレビのチカラ 中部・北陸・関西・中国地区大会 2024静岡

2024年10月19日（土）グランシップ中ホール・大地
主管局：静岡放送



地区大会
静岡大会

大会テーマ



地域から世界へ！
スポーツのチカラは無限大∞



パリオリンピック・パラリンピックが開催されるなど、スポーツへの注目が高まった2024年。「地域から世界へ！スポーツのチカラは無限大∞」を大会テーマに、スポーツを媒介とした地域振興や人材育成について各界で活躍する指導者や地域おこしでスポーツに携わる方々と共に「スポーツの持つチカラ」について考えました。

大会の幕開けを飾った、国内外で高い評価を得ている静岡城内一輪車クラブのパフォーマンス。“陸上のフィギュアスケート”とも例えられる一輪車の華麗なダンスを披露し、美しく息の合った演技で会場は拍手に包まれました。第一部のトークセッションには、磐田市出身で元プロ卓球選手の水谷隼さんが登壇。自身の著書のタイトルでもある「打ち返す力」をテーマに、卓球人生で培った勝負への心構えや、逆境の乗り越え方を伝えてくださいました。第二部のパネルディスカッションでは、水谷さんに加え、大榎克己さん、中川智博さん、杉澤教人さん、コーディネーターに岡田真理さんを迎えました。競技を超えて様々な角度からスポーツに携わるパネリストに、「スポーツの持つチカラ」について話し合っていました。小さな子どもでもお年寄りでも、継続すればどの年代でも「勝つ」ことができる、と生涯スポーツの大切さも話題に上りました。

会場には年配の方から部活動ジャージを着た高校生まで、世代を超えた400人弱の観覧客も集まり、パネリストの話に耳を傾けました。来年度の主管局は、度重なる災害で被害を受けた石川県の北陸放送です。会場では、復興へのメッセージを込めた石川県の紹介VTRも流れ、大会は来年度へ期待も高まり幕を閉じました。

編成業務局長 松浦 康弘



プログラム

▶司会

岡村 久則（静岡放送アナウンサー）
井手 春希（静岡放送アナウンサー）

●オープニングアクト

「一輪車パフォーマンス」静岡城内一輪車クラブ

第1部 トークセッション

「打ち返す力」

水谷 隼（元プロ卓球選手）

▶聞き手

牧野 克彦（静岡放送アナウンサー）

第2部 パネルディスカッション

「地域から世界へ！スポーツのチカラは無限大∞」

▶パネリスト

水谷 隼（元プロ卓球選手）
大榎 克己（一般財団法人 静岡県サッカー協会 会長）
中川 智博（株式会社 TOMORUN 代表取締役社長）
杉澤 教人（フェンシングのまち沼津推進協議会 会長）

▶コーディネーター

岡田 真理（スポーツライター 脚本家）

テレビのチカラ 四国・九州・沖縄地区大会 2024沖縄

2024年10月26日（土）タイムスホール

主管局：琉球放送



地区大会
沖縄大会

大会テーマ



エンタメの
パワーを
沖縄のチカラに



独自の風土や文化を持つ沖縄県。

本大会では沖縄の「エンターテインメント」のチカラに注目し、それを地域の教育や活性化にどう繋げるかを考えました。

第1部の基調講演では、「島唄」の全国的なヒットで知られるシンガーソングライターの宮沢和史さんが沖縄芸能の多様性と可能性について講演しました。宮沢さんは自身の経験をもとに南米やジャマイカ、ヨーロッパで沖縄の民謡や踊りが現地の人に広く受け入れられたエピソードを紹介。「沖縄の音楽は世界に通じる。沖縄ならではの芸能文化や年中行事の大切さはだんだん薄れてきているが、絶対捨ててはいけないものがこの島にはある」と熱く語りました。

また第2部のパネルディスカッションでは、エンターテインメントを、いわゆる芸能音楽だけでなく、人々を楽しませる娯楽施設やサービスも含むものとして幅広く捉えて議論を展開。沖縄本島北部で2025年開業予定のテーマパーク「ジャングリア」を運営するジャパンエンターテインメント副社長の佐藤大介さん、お笑いコンビ「ガレッジセール」のゴリさん、琉球舞踊玉城流三代目家元の玉城盛義さん、沖縄観光コンベンションビューロー会長の下地芳郎さんが登壇し、それぞれの視点からエンタメが沖縄を元気にする未来について語りました。議論の中で課題と挙がったのは「人材育成」と「稼ぐチカラ」。下地さんは「沖縄には世界に誇れる本物のエンタメが沢山あるが、それを支える人材をしっかりと地元で育て、きちんとそこにお金が回る仕組みを作って、観光や経済など地域活性化に繋げていくことが重要」と訴えました。

コンテンツ制作局 コンテンツ制作部長 高良 誠



プログラム

▶司会

田久保 諭（琉球放送アナウンサー）

●オープニングアクト

「島唄」「シンカヌチャー」三線弾き語り

▶演奏

宮沢 和史（シンガーソングライター）

第1部 講演

「唯一無二、世界に誇れる沖縄芸能 その多様性をひも解く」

▶講師

宮沢 和史（シンガーソングライター）

第2部 パネルディスカッション

「エンタメのパワーを沖縄のチカラに」

▶パネリスト

佐藤 大介（株式会社ジャパンエンターテインメント 取締役副社長）

ゴリ（照屋 年之）（タレント／映画監督）

玉城 盛義（玉城流三代目家元 重要無形文化財「組踊」保持者）

下地 芳郎（一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 会長）

▶ファシリテーター

島袋 彩子（フリーアナウンサー）



南海放送



RKB 毎日放送



琉球放送



高知放送



大分放送

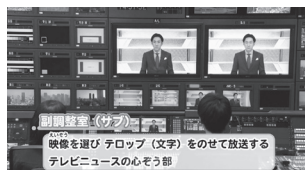
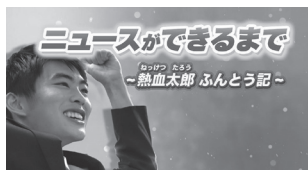
文部科学省後援

小学校授業支援事業

小学校授業支援事業は、「未来を担う子どもたちの育成事業」として2009年度にスタートしたもので、2011年度からは文部科学省後援の事業となっています。加盟各社が地域の小学校の協力を得て、授業のカリキュラムとして組み込む中で行う子どもたちに向けたメディアリテラシー教育を行うものです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度から3年間実施できませんでしたが、2023年度より再開させていただきました。民間放送教育協会が制作した動画「ニュースができるまで」を小学生に視聴してもらい、その後に実施局の担当者が授業を展開する形式や、テレビ局見学と同時に進行形式など、加盟各局が趣向をこらして授業を展開しております。2024年度は過去最多の13局が実施いたしました。

動画「ニュースができるまで」



2024年度 「小学校授業支援事業」実施局（13局）

北海道放送

青森放送

IBC岩手放送

信越放送

山梨放送

山口放送

四国放送

南海放送

高知放送

RKB毎日放送

大分放送

南日本放送

琉球放送



山梨放送 YBSワイドニュース 2024年11月15日 (金)



〈小林 諒〉

必要情報活用
児童70人に授業
山梨放送
山梨放送15日 甲府・山
日YBS本社で、駿台甲府小
の児童を対象に、必要な情報
を選んで使用する「メディア
リテラシー」の授業をした
写真。
山梨放送が加盟する民間放
送教育協会が実施する「小学
校授業支援事業」の環で、
小学5年生約70人が参加し
た。ニュースが放送されるま
での過程を説明した映像を見
て、報道番組が正確性と報
道性・公益性などを重視して
いることを学んだ。
タブレット端末を使った動
画の撮影方法を習ったほ
か、ニューススタジオを見学
する時間もあった。
参加した山崎詩織さんは
「いろいろな視点を考えニ
ュースが作られていること
が分かったと話した。」

山梨日日新聞 2024年11月17日付 17面



文部科学省後援

読み聞かせ事業

公益財団法人 民間放送教育協会では、2011 年度より、「子ども未来プロジェクト」の一事業として、加盟する放送局の協力を得て、「読み聞かせ事業」を実施しております。

この事業は、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災により、被災地のみならず、その他の地域の子どもたちも緊張や不安が高まり、心に傷を受けていたことをきっかけに、放送事業者として心のケアにどう取り組んでいけるのかを加盟各局で検討してスタートしたものです。今年度も、文部科学省後援の事業となっております。

放送局の持っているリソースを生かしアナウンサー等による本や絵本の対面での読み聞かせはもちろん、コロナ禍以降はオンラインを活用したりリモート読み聞かせ、読み聞かせ番組の Web 配信など、加盟各局が工夫を凝らすことで継続しております。2024 年度は過去最多の実施局数となり、29 局が全 157 回の「読み聞かせ事業」を実施いたしました。

今後も、放送事業者としての特性を生かし、多くの地域で「読み聞かせ事業」を継続していきたいと考えています。

2024年度 「読み聞かせ事業」実施局（29局）

北海道放送	青森放送	IBC岩手放送	秋田放送	山形放送	東北放送
福島テレビ	新潟放送	信越放送	山梨放送	北日本放送	北陸放送
福井放送	静岡放送	メ〜テレ	朝日放送テレビ	日本海テレビ	山口放送
西日本放送	四国放送	南海放送	高知放送	長崎放送	大分放送
熊本放送	宮崎放送	南日本放送	沖縄テレビ放送	琉球放送	



東北放送



静岡放送



南日本放送



新潟放送



日本海テレビ



民教協からのお知らせ



学校教育・生涯学習に 番組DVDの貸し出しをご活用ください。

民間放送教育協会では、番組を使って授業を行う場合に番組DVDの貸し出しを行っております。
2024年度は12作品が合計15回、貸し出されました。

貸出件数	15回		
視聴人数	483人		
貸出作品	12作品	発見！人間力	1作品
		日本のチカラ	7作品
		民教協スペシャル	4作品

複数回の貸し出しがあった人気作品は以下の通りです。

貸出回数	作 品 名	目 的（抜粋）
3回	第26回 民教協スペシャル 「生きることを選んで」	・神経難病患者を対象とした看護学実習の事前学習として患者理解に役立てる。 ・介護福祉士を目指す学生に、難病についての理解を深める。 ・看護学生に対して、難病患者の理解のための授業に使用。特に、患者自身の葛藤や人工呼吸器装着に伴う自己決定の在り方について、学生が考える機会となることを目的とする。
2回	第37回 民教協スペシャル 「私の中のかげらたち ～虐待を生きる22歳～」	・「教職実践演習」という授業で、養護教諭になりたい学生に「私の中のかげらたち～虐待を生きる22歳～」を視聴させ、養護教諭としての大切なことを明確にしたいです。 ・4年生課程の「教職実践演習」内で視聴します。本校には養護教員養成課程があり、この番組の舞台でもある信州そして新潟という部分にも感覚的に近い視点で見られるものと考えます。



小・中学校での道德の授業や修学旅行の事前学習、大学や高等学校、看護学校における講義内での視聴など、学校や教育・研究機関、福祉団体などの非営利の団体の皆様に、番組をご活用いただいております。

貸し出し作品は、「日本のチカラ」・「日本！食紀行」・「学びEye！」・「発見！人間力」・
「民教協スペシャル」です。

貸し出し方法、番組の内容は当協会ホームページ「番組貸し出し」をご覧ください。

（注）貸し出しは著作権の範囲内で行っています。

2025 年度 公益財団法人 民間放送教育協会 理事・監事・評議員名簿

2025 年 3 月 31 日現在（敬称略）

理 事（19 名）

会 長	吉永 みち子	ノンフィクション作家
副 会 長	佐藤 隆夫 （株）新潟放送	代表取締役会長
理 事 長	武田 徹 （株）テレビ朝日	取締役副会長
常 務 理 事	堀江 隆 （株）テレビ朝日	常務取締役
理 事	石渡 弥 （株）電通	ラジオテレビ局長
	板垣 正義 山形放送（株）	代表取締役社長
	猪俣 知三 （株）大分放送	代表取締役社長
	今村 俊昭 朝日放送テレビ（株）	代表取締役社長
	大島 新	ドキュメンタリー監督
	大西 康司 南海放送（株）	代表取締役社長
	鎌田 英樹 （株）IBC 岩手放送	代表取締役会長
	川上 純平 （株）博報堂 DY メディアパートナーズ	テレビラジオビジネス局長
	坂口 吉平 （株）山陰放送	代表取締役社長
	坂口 洋一朗 （株）熊本放送	代表取締役社長
	高田 坦史 （一社）日本中小企業経営支援専門家協会	代表理事
	中村 一彦 琉球放送（株）	代表取締役社長
	野口 英一 （株）山梨放送	代表取締役社長
	山崎 由幸 （株）高知放送	代表取締役社長
	横山 淳 福島テレビ（株）	代表取締役社長

監 事（2 名）

島谷 浩司	北日本放送（株）	代表取締役社長
安部 孝志	（株）テレビ朝日	ネットワーク局長

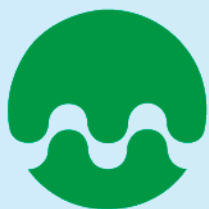
評議員（17 名）

東 晋	長崎放送（株）	代表取締役社長
音 好宏	上智大学	教授
狩野 隆也	名古屋テレビ放送（株）	代表取締役社長
勝田 直樹	北海道放送（株）	代表取締役社長
境 真理子		ジャーナリスト
坂元 章	お茶の水女子大学	理事・副学長
中村 卓朗	西日本放送（株）	代表取締役社長
西鳶 一泰	日本海テレビジョン放送（株）	代表取締役社長
丹羽 美之	東京大学大学院	教授
林 延吉	山口放送（株）	代表取締役社長
星野 博美		ノンフィクション作家
堀木 卓也	（一社）日本民間放送連盟	専務理事
宮川 正	（独法）中小企業基盤整備機構	理事長
宮迫 良己	（株）中国放送	代表取締役社長
森 達也		映画監督
若松 仁嗣	（一社）全国農業協同組合中央会	常務理事
渡辺 雅義	信越放送（株）	代表取締役社長

2024 年度 民間放送教育協会の主な活動

2024 年 令和 6 年	4 月	8 日	日本のチカラ 2024 年度 第 2 回ブラッシュアップ会議（琉球放送・北海道放送・IBC 岩手放送・青森放送・南海放送）
		19 日	第 65 回 科学技術映像祭 表彰式（教育・教養部門 優秀賞）
		20 日	2024 年度「日本のチカラ」放送開始
	5 月	20 日	日本のチカラ 2024 年度 第 3 回ブラッシュアップ会議（大分放送・高知放送・RKB 毎日放送・テレビ朝日・メ〜テレ）
		21 日	第 133 回 理事会
	6 月	5 日	第 120 回 評議員会
			第 134 回 理事会（書面決議）
		17 日	日本のチカラ 2024 年度 第 4 回ブラッシュアップ会議（信越放送・山口放送・メ〜テレ・北日本放送・大分放送）
		22 日	映画「ハマのドン」日本映画復興奨励賞 受賞
	7 月	22 日	日本のチカラ 2024 年度 第 5 回ブラッシュアップ会議（山梨放送・四国放送・中国放送・宮崎放送・北陸放送）
	9 月	2 日	日本のチカラ 2024 年度 第 6 回ブラッシュアップ会議（西日本放送・新潟放送・南海放送・沖縄テレビ・福井放送）
	10 月	3 日	日本のチカラ 2024 年度 番組選奨 上期評価会議
		5 日	「テレビのチカラ北海道・東北・関東・甲信越地区大会 2024 新潟」（主管：新潟放送）
		7 日	日本のチカラ 2024 年度 第 7 回ブラッシュアップ会議（日本海テレビ・信越放送・東北放送・山陰放送）
		19 日	「テレビのチカラ中部・北陸・関西・中国地区大会 2024 静岡」（主管：静岡放送）
		26 日	「テレビのチカラ四国・九州・沖縄地区大会 2024 沖縄」（主管：琉球放送）
	11 月	11 日	日本のチカラ 2024 年度 第 8 回ブラッシュアップ会議（北陸放送・長崎放送・東北放送・朝日放送テレビ）
		22 日	2023 年度「日本のチカラ」番組選奨 表彰式
		23 日	「第 60 回 テレビのチカラ全国大会 2024 福島」（主管：福島テレビ）
	12 月	2 日	日本のチカラ 2024 年度 第 9 回ブラッシュアップ会議（南日本放送・熊本放送・北海道放送）
		9 日	制作責任者総会

2025 年 令和 7 年	1 月	14 日	第 39 回 民教協スペシャル 完成試写会
		23 日	東京支社連絡担当者会議
		31 日	映画「104 歳、哲代さんのひとり暮らし」広島先行公開 開始
	2 月	5 日	日本のチカラ 2024 年度 番組選奨 下期評価会議
		8 日	第 39 回 民教協スペシャル「時給 10 円という現実 ～消えゆく農民～」(制作：山形放送) 放送
		10 日	日本のチカラ 2025 年度 第 1 回ブラッシュアップ会議（秋田放送・福島テレビ・メ〜テレ・琉球放送）
		18 日	東京支社長会議
		26 日	第 40 回 民教協スペシャル 一次審査会議
			第 135 回 理事会
	3 月	4 日	日本のチカラ 2024 年度 番組選奨 選考会議
		12 日	第 40 回 民教協スペシャル 二次審査会議
		17 日	日本のチカラ 2025 年度 第 2 回ブラッシュアップ会議（テレビ朝日・山形放送・新潟放送）
		24 日	第 121 回 評議員会



THE MINKYOKYO

民教協ネットワーク

民間放送教育協会
加盟33社

全国33局ネット

北海道・東北・ 関東・甲信越地区

北海道放送	HBC
青森放送	RAB
IBC岩手放送	IBC
秋田放送	ABS
山形放送	YBC
東北放送	TBC
福島テレビ	FTV
新潟放送	BSN
信越放送	SBC
山梨放送	YBS
テレビ朝日	EX

中部・北陸・ 関西・中国地区

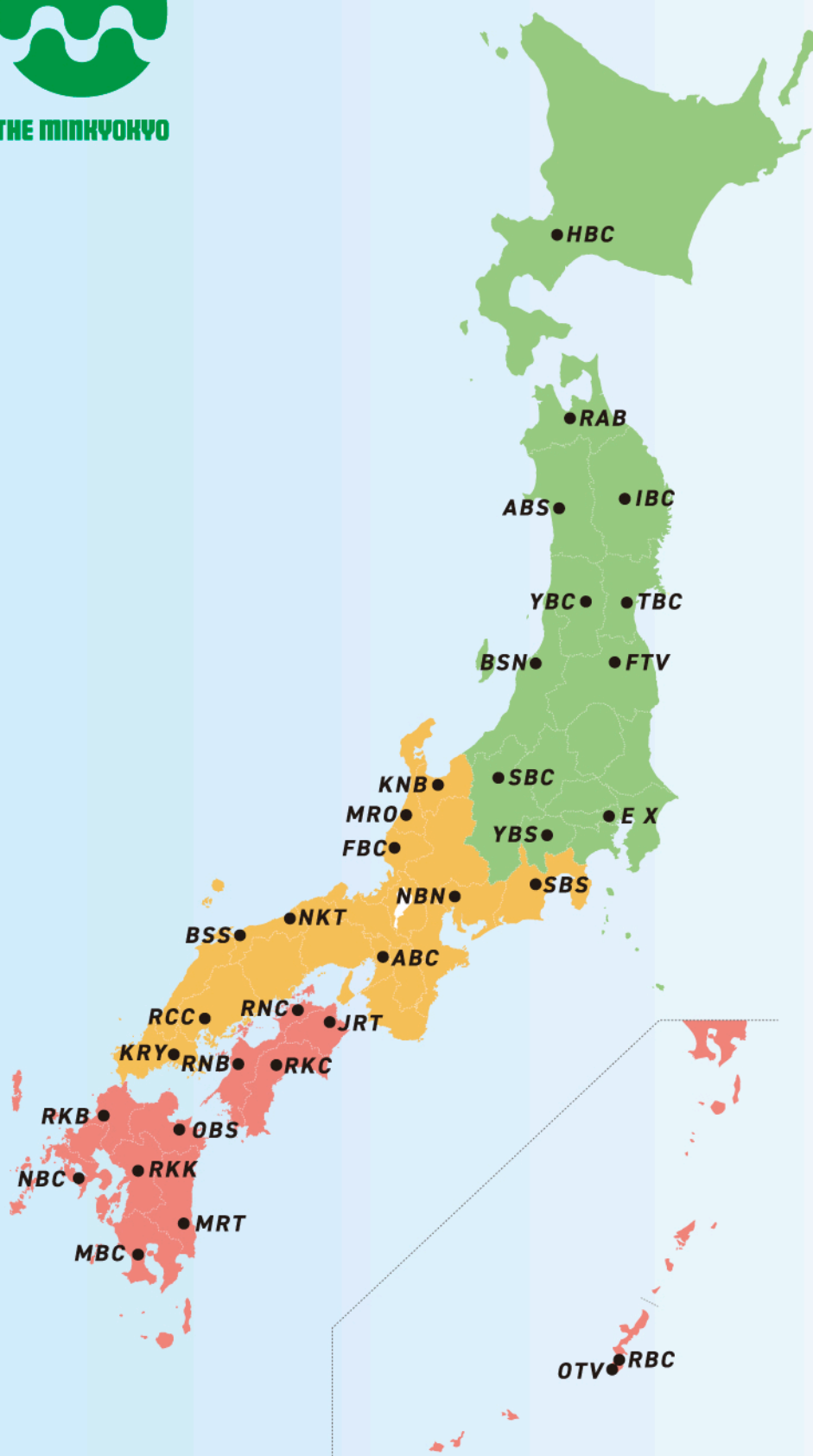
北日本放送	KNB
北陸放送	MRO
福井放送	FBC
静岡放送	SBS
メ〜テレ	NBN
朝日放送テレビ	ABC
日本海テレビ	NKT
山陰放送	BSS
中国放送	RCC
山口放送	KRY

四国・九州・ 沖縄地区

西日本放送	RNC
四国放送	JRT
南海放送	RNB
高知放送	RKC
RKB毎日放送	RKB
長崎放送	NBC
大分放送	OBS
熊本放送	RKK
宮崎放送	MRT
南日本放送	MBC
沖縄テレビ放送	OTV
琉球放送	RBC

賛助会員

日本国際放送	JIB
--------	-----





<https://www.minkyo.or.jp/>